

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

| | | |
|---|-----------------------------------|-----------|
| 研究種別 | ■自主研究 10 | 公益目的事業 17 |
| 主査名 | 庭田文近 城西大学現代政策学部准教授 | |
| 研究テーマ | 包括的富における交通インフラ整備の政策評価（基礎理論プロジェクト） | |
| <p>国際連合は、2012 年に開催した持続可能な開発会議（リオ+20 サミット）において、持続可能性を踏まえた真の豊かさを捉える新たな指標として、「包括的富指標（IWI： Inclusive Wealth Index）」を提唱した。包括的富指標は、市場を通じた経済価値のみならず生態系ないしは環境さらには人々の健康といった非市場価値をも内包する指標であり、また人的資本・生産資本等だけでなく自然資本の変化を捉えることで持続可能性を評価しうるものである。</p> <p>東京の一極集中の弊害そして地方創生が叫ばれている現在、我が国において、東京および地方ごとに真の豊かさ・持続可能性を評価することは重要である。そこで、本研究では、我が国の地域ごとの包括的富の評価の基礎として、包括的富指標（IWI）の理論および方法について整理を行い、その中でも特に地域住民の福祉と持続可能性に大きく影響しうるであろう交通インフラストラクチャーと環境の扱いについて検討を加えるとともに、試算事例も収集・整理する。上記の研究目的のため、以下の 3 項目を行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) Nick Hanley and Edward B. Barbier (2009) Pricing Nature: Cost-Benefit Analysis and Environmental Policy, Edward Elgar Publishing. より、Valuing ecosystem services ほかを精読。(2) インターネット検索による文献の収集・整理。(3) 道路資本・環境資本の価値について、日本の地域レベル（地方）での試算の検討上記の研究目的のため、以下の 3 項目を行っていく。 | | |